

令和2年度 知識集約型社会を支える人材育成事業審査結果

大学等名	麻布大学	整理番号	6
メニュー	メニューⅡ 出る杭を引き出す教育プログラム		
事業計画名	動物共生科学ジェネラリスト育成プログラム		

[採択理由]

本事業計画は、ヒト・動物・環境の持続的健康社会の構築のために世界をリードできる人材を育成するため、強みである動物共生科学を主軸にデータサイエンス及び関連領域の知識と実践を修得できる学部・修士一貫プログラムを構築するものである。さらに、卓越した高校生への大学授業履修制度を設置するなど、高大接続の取組により、早期の人材育成にもつながるものである。

本教育プログラムは、当該大学のこれまでの教育成果として、課題解決型学習やアクティブ・ラーニングの取組、また AI・データサイエンス教育の導入などを前提に、「個々人の可能性を最大限に引き出す教育」を通して出る杭を引き出し、かつ、動物・生命科学関連分野においてデータサイエンスを活用できる人材を育成するといった社会のニーズに基づいたものとなっており高く評価できる。

また、本事業計画は大学の教育改革の中核に位置付けられており、学長をトップとする教育研究会議が主体となるなど、学長を中心とした運営体制も十分に確立されている。特に、体制面において、データサイエンス教育を担う「動物・生命科学データサイエンスセンター」の設立も計画されており、補助期間終了後も継続的かつ発展的な取組の実施が十分に見込めるものとなっている。

本教育プログラムにおいては、高度な専門性に裏打ちされた「知識力」に加え、社会との連携による「地域・社会での実践応用力」の育成といった明確な学修目標が設定されており、その達成に向けたカリキュラム内容となっている。また、学生の学修評価の観点からは、ルーブリック・GPA等の取組を発展させ、新たな LMS システムの整備や Step GPA 並びに修学カラーマップを導入し、これらを活用することで、学生個々の学修状況の把握や履修指導を行うなど、教学 IR とも連動する新たなアセスメント・プランを構築しており、教育プログラムにおける学修目標を達成するための方策が十分に考えられている。

高大接続に関しては、附属校などこれまで連携実績のある高等学校を中心に、高校生に対して学士課程のディプロマ・ポリシーを提示するとともにそれを踏まえた研究計画を提案させ、採択課題には大学教員メンターによる支援の下で実際に研究に従事させる計画としている。加えて、オンライン・オンデマンドによる大学の講義の履修、大学入学後の本教育プログラムへの参加資格を付与、研究プログラムや領域横断科目の提供、修士課程科目の早期履修など、高等学校から修士課程までつながる学修の道筋が明確に示されていることは評価できる。

以上のことから、当該大学の事業計画は「幅広い教養と深い専門性を両立した人材の育成」と「全学的な教学マネジメントの確立」という今回の事業趣旨に合致した内容であると認められるものであり、着実な計画の実施が望まれる。